

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本年度の活動は、昨年度行った活動がより効果的な活動となるよう改善することを中心に行った。全体の流れとしては、1年生から9年生までのそれぞれの学年でテーマ（表1参照）を決め、児童生徒がテーマにそって学んだ内容を、12月に本校で実施した公開研究会でポスターセッションの形式で発表させるというものである。

表1

学年	テーマ
1年生	ひとつぶのたねから～あさがおの一生～
2年生	味噌作りを通して、くらしを見つめる
3年生	世界の兄弟と手をつなぐ子ども
4年生	七北田川とわたしたちのくらし～すすめ！七北田川調査隊～
5年生	秋田・宮城の特色を紹介しよう
6年生	日本の歴史・風土を客観的に理解し、英語で伝える力をつけよう
7年生（中学1年生）	大学見学を通して将来を考えよう
8年生（中学2年生）	総合学習「久慈市内宿泊研修」を紹介しよう
9年生（中学3年生）	ケアンズ語学研修～オーストラリア学校間交流における日本文化の発表～

テーマの設定については、各担任がそれぞれの学年の実態や授業、課外活動などから設定した。特にどの学年でも設定されている宿泊体験学習を中心としたテーマ設定が多い。例えば、9年生（中学3年生）ではオーストラリアのケアンズに語学研修に行く。その中でオーストラリアの学校を訪問し、日本の文化を相手に伝えるという活動を行う。このような活動からテーマを設定し、実践を重ねていった。

本校ではそれぞれのテーマの学習内容をまとめ、発表する方法としてポスターセッションの形式で発表する実践を行ってきた。ポスターセッションは発表内容をポスターにまとめて聴衆に発表する方法である。ステージ上で発表する形式との最大の違いは聴衆が発表者に近い点である。そのため、より多くの質問が出ることが予想される。こうして質問をうけることで、発表した児童生徒に新たな課題をもたせるのがねらいである。本校では12月の公開研究会で代表児童生徒によるポスターセッションを行った。

このような活動をより効果的な指導とするために、学年ごとにテーマに沿ったカリキュラムを作成した。昨年度の課題として、本校では5年生以上と中学校課程では教科毎に担当者が異なるため教科間で連携を取りにくいことと、公開研究会でESDの活動が一段落するため年間を通じた活動がしにくいという2点が挙げられた。カリキュラムを作成することで教科間の連携が取りやすくなり、公開研究会後の活動もしやすくなることをねらいとした。成果としてはテーマに沿った授業をそれぞれの教科でしやすくなったことである。前述の9年生ではオーストラリアの宿泊体験学習の前に、理科で天体について学習し、北半球と南半球との違いを知って現地へ向かうという活動ができた。また、公開研究会後にどのよ

うな活動をするか事前に決めてあったため、その後の活動も活発に行われた。

今年度新たに見つけた課題としては、学年間の連携とポスターセッション指導の共有である。今年度は学年内での連携をねらってカリキュラムを作成したが、学年間での繋がりに焦点が当たっていなかった。そのため、今年度学習した内容が次年度の活動にどのように関連していくかの見通しを持たない学年もある。また、ポスターセッションの指導方法を、教員間で共有する機会を持つことができなかった。そのため、高学年の発表よりも低学年の発表の方が分かりやすいという事例も出てしまった。次年度はこれらの課題を解決するために、他学年の活動も俯瞰できる ESD カレンダーの作成をして学年間の共有も図るとともに、ポスターセッションの指導方法の研究も行っていきたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）